（仮訳）

プレス・リリース

2024 年 4 月 25 日

国際的な監督コミュニティがグローバルな銀行監督・規制の今後の課題について議論

- 銀行監督者国際会議（以下、「ICBS」）は、「実効的な銀行監督のためのコアとなる諸原則」（以下、「バーゼル・コア・プリンシプル」）の改訂を採択。
- バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）は、銀行によるカウンターパーティ信用リスク管理を強化するためのガイドラインについて市中協議を行うことに合意。
- 金融のデジタル化に関する分析報告書を公表することに合意。

４月 24 日から 25 日にかけてスイス・バーゼルで開催された第 23 回 ICBS には、90 を超える法域から、220 名を超える中央銀行・銀行監督当局者が参加した。本会議には、バーゼル委の設立 50 周年を記念するプログラムが含まれていた。参加者は、この機会に、過去半世紀にわたるバーゼル委の成果を振り返り、銀行及び監督当局者の見通しやバーゼル委の今後の作業へのインプリケーションについて意見交換した。

参加者は、銀行及び銀行システムの健全性に関する規制及び監督のための国際基準である、バーゼル・コア・プリンシプルの改訂版を採択した。バーゼル委は、監督及び規制上の進展、銀行システムに影響を与える構造的変化、並びに 2012 年の前回の見直し以降に得られた教訓を反映させることを目的として、2022 年にバーゼル・コア・プリンシプルの見直し作業を開始した。改訂された基準は以下の変更を反映している。

- 金融リスクを軽減し、監督のマクロプルーデンスに係る側面を強化するための教訓を組み込むこと。
- オペレーショナル・レジリエンスを促進すること。
- コーポレート・ガバナンス及びリスク管理実務を強化すること。
- 金融のデジタル化及び気候関連金融リスクを含む、新たなリスクに対処すること。

バーゼル・コア・プリンシプルは普遍的に適用され、様々な銀行システム及び広範な種類の銀行に対応している。バーゼル・コア・プリンシプルは、監督当局が規制・監督上の枠組みの有効性を評価する際に用いられる。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行が金融セクター評価プログラム（FSAP）の一環として、各国の銀行監督システムや実務の実効性を評価する際にも用いられている。改訂された基準は、バーゼル委のメンバー及びメンバー以外の法域、IMF、世界銀行から構成されるタスクフォースによって策定された。

参加者は、実効的な監督及び銀行リスク管理実務の重要性を再確認し、改訂された基準を完全に実施することにコミットした。

バーゼル委議長であるパブロ・エルナンデス・デ・コス氏は以下のように述べた。「今年の ICBS は、過去 50 年間のバーゼル委の成果を記念し、グローバルな銀行システムに影響を与えるリスクや構造的変化の進展を見据える上で、世界中の中央銀行や銀行監督当局にとって歴史的な節目となるイベントであった。参加者はまた、バーゼルⅢ基準が有益であること、そしてその基準を各メンバー法域が完全かつ整合的な形で、可能な限り早期に実施することが重要であることを確認した。より一般的に言えば、ICBS は、グローバルな金融システムの下、銀行が高い相互連関性を持つ世界における、クロスボーダーの協力に対する継続的なコミットメントを際立たせた。」

バーゼル委は、ICBS に先立ち、４月 23 日に会合を開催した。

- 銀行によるカウンターパーティ信用リスク管理のためのガイドラインに関する市中協議文書の公表を承認した。提案されたガイドラインは、最近のノンバンク金融仲介の経営難から得られた教訓を反映しており、バーゼル委による既存の「銀行と、レバレッジの高い業務を行う機関との取引に関する健全な実務のあり方」に代わるものである。市中協議文書は来週公表される。

- 金融のデジタル化に関する分析報告書を公表することに合意した。本報告書は、2018 年に公表した「サウンド・プラクティス：FinTech の発展がもたらす銀行及び銀行監督当局へのインプリケーション」に基づいており、金融のデジタル化における最近の進展並びに規制・監督上の含意をストックテイクしている。本報告書は本年５月に公表される予定。